

精神科看護師の365日

平成25年度の日精看のテーマ「365」にちなみ、全国のさまざまな施設で働く精神科看護師の日常を紹介します。

file.4

ベテランナースの1日

こころクリニック

藤井泉さん(55歳・精神科看護歴29年)の場合



左/病院のスタッフと。
右/集団療法の様子。



やりがいや励みになること

見 児童精神科を掲げているため、1日40～60人ほどいらっしゃる患者さんのうちのほとんどが子どもたちです。通院するうちに少しずつ状態がよくなっていく子どもたちの変化を間近で見られることが何よりの喜びです。はじめはクリニックに入るのも難しかった子が、時間をかけてかかわるうちに、笑顔を見せてくれるようになった時など本当にうれしくなります。日ごろ、意識していることとしては、自然体で正直に子どもたちと向きあうこと。こちらが率直にこころを開くと、相手もこころを開いてくれると思っています。

精神科看護師になったきっかけ

最 初に勤めたのは総合病院の外科でしたが、結婚・出産を機に退職した後に復職したのが自宅の近くにあった精神科単科の河田病院（岡山県岡山市）でした。ここに25年勤めるなかで、精神科看護の奥深さを知ることになり、患者さんの成育歴などをうかがううちに子どものこころのケアの重要性を感じるようになりました。

現在の仕事内容

河 田病院で同僚だったドクターが児童精神科のクリニックを開院することになり、声をかけていただき、平成21年秋より倉敷市内の「こころクリニック」に勤務しています。受付、会計、処方薬の準備などの業務が中心で、病棟

勤務だったころに比べると働き方は大きく変わりましたが、より地域に開かれた場で、児童相談所などほかの機関とも連携しながら治療をしていくプロセスはとてもやりがいがあります。「小学生男子・女子」「母親」など、属性ごとにグループをつくって行っている集団療法には特に力を入れています。

藤井さんの

ある日のスケジュール

8:30	出勤、掃除、ミーティング
9:00	午前の診察開始、受付、会計、処方薬の準備など
12:30	昼食休憩
13:30	午後の診察開始、受付、会計、処方など
15:30	集団療法
18:00	退勤

今後の目標

地 域の中のクリニックに身を置くようになってから、患者さん自身だけでなく、家族、学校、保育園など「患者さんの周辺」と連携する場面がとて多くなりました。今後も連携を強化して、1人でも多くの患者さんが地域で生活しやすいサポートをしていきたいと思っています。また、成人期のケアやご両親の支援も今後取り組んでいきたい課題です。